

鯉淵勢の動向・年表(元治元年:1864、7/25~10/30)

年	月日	事項
元治元年 (1864)	7月25日	長岡宿駅助郷へ出かけた鯉淵村民は、長岡宿を賊徒が通行し、水戸へ向かうとの知らせを聞きつけ、村方正法山持福院に集合、賊徒追討に加勢することにした。庄屋山田惣五郎家を本陣とし、村方の6ヶ所に見張りを立てて、昼夜嚴重に警戒をはじめた。
	7月27日	七ツ時、組合犬塚村に賊徒が侵入。追討に出かける。
	7月28日	賊大将田中原蔵が郷校野口館を引き払い、加倉井村から鯉淵村へと通行する知らせが届く。人数200人余が組合村々から続々と駆け付けたため、田中らは方向をかえようとするが、杉崎宿入口で砲発があり、田中らは三湯から小原へ逃げ去り、夜は穴戸本町へ止宿。
	7月29日	組合村々田中勢を追って土師村へやってくる。この時、鯉の一字を印した旗に村々の名を書いたものを45本かかげた。土師村での大合戦で、田中隊は村に砲火し逃亡する。敵方即死2人、手負20人、味方で即死は4名、手負は2名。
	8/1~14	村方6ヶ所で見張り。村々でそれぞれ待機する。
	8月15日	賊の大将、岩谷啓一郎らが小鶴村如意輪寺に在るとの知らせがあり、水府上町口から押し入るといので、小鶴村まで出掛け、合戦する。味方に1人も怪我人はいなかった。首級3つ討ち取り、その夜九ツに帰陣。
	8月21日	御達により、組合村々は鯉淵村へ集合し、700人余りが常葉表へ出陣した。この時敵は神勢館までやって来ていた。鯉淵勢は馬喰勞町口を守ることとなったが、穴戸川根より賊が大軍で侵入するという知らせを受け、許可をもらって全員帰陣した。
	8月24日	穴戸表へ出陣する。穴戸陣屋に田中勢の荷物があるとの風聞により、陣屋改めをする。武器類、薬などを押収。
	8月27日	小堤村台で合戦。敵方即死、手負は7人。味方の討死2名、手負2名。
	8月28日	堅倉宿へ追討に出掛ける。
	8月30日	中郷村永福治へ追討に出掛ける。小川宿まで足を伸ばし、そこで松平周防守の一隊と出会う、追討のお供をして、鉢田まで出陣。
	8月31日	賊が磯ノ浜から植野村へかかり、長岡宿までやって来て、水戸城上町口から侵入しようとしているとの知らせがあった。松平周防守に報告し、許可を得て帰陣。
	9月6日	磯ノ浜で合戦。大雨。敵方即死3人、手負45人。味方の即死2人、手負1人。賊、磯ノ浜に放火。これにより帰陣。
	9月8日	味方の討死2人、手負は1人。
	9月9日	夏海村表出陣中、賊徒が大古山村橋より侵入。留守中のことで困ったが、その夜帰陣した者が居合わせたので、勝利した。生け捕り19人、首を討取った者が5人、味方の手負の者3人。
	9月10日	穴戸表へ残徒の山狩のため出陣し、そこで昼食。住吉村で夕飯ののち帰陣。
	9月11日	中妻郷杉崎村で昼食、大足村、三湯村、小林村あたりまでの所々で山狩。その後一同帰陣する。
	9月12日	組合村々は鯉淵村に集合し、大戸村で昼食を取り、大湯村へ出陣。
	9月13日	嶋田新田で打合戦。鯉淵勢は半勢に分かれて追討をする。この日は大場村に宿泊。
	9月14日	帰陣。
	9月15日	大貫村堀川で合戦がはじまる。幕府軍の指示を受けて、湊方面へ出掛ける。
	9月16日	海老沢村に宿陣する。夏海村役人から今夜賊徒が村を放火するという知らせがあったことを聞き、夏海村3箇所の守りを固める。
	9月17日	夏海村に宿陣。この日の戦闘で敵方即死14人、味方即死は1人、手負は2人。朝から夕の戦闘となり、夕方、大貫村札場へ糞を焚いておき、一同夏海村まで帰る。
	9月19日	幕府軍本陣修理、戸田吾介、松平周防守による探索のため、鯉淵勢が地理案内をする。堀川付近で敵の大小砲を受ける。幕府軍、即死・手負など20人、賊軍即死・手負は12人。味方の即死は1人、深手を負って1人死亡。
	9月20日	堀田相模守軍の地理案内をする。8ツ時、大貫村浜手から堀川に近づくと、昨19日のように砲撃を受ける。堀田側に3人手負あり。そこで、夏海村へ帰陣となった。
	9月21日	鯉淵勢は兵糧に手違いがあり、800人が帰陣となった。残りの2~300人は松平周防守に加勢し、大貫村宿中で野陣し、固めていたが、9ツ時に賊が波打ち際から夜襲をかけてきた。火を放たれ、周防守方に即死・手負は20人余、鯉淵勢は4人即死が出た。
	9月25日	郡方役所から鯉淵勢に兵糧に下げ渡しあり。その夜、水戸神応寺で宿陣。
	9月26日	塩ヶ崎に宿陣中の平岡四郎兵衛のもとに行き、兵糧をもらう。
	9月28日	この日の朝まで、大串村で宿陣。同日朝、幕府追討軍統括田沼玄蕃守からの命令で、中根村に宿陣中の北条新太郎に属することになった。朝のうちに北条のもとに向い、三反田村原坪で宿陣。
	9月29日	中根村に宿陣中の市川三左衛門を訪ね、半勢でなく全体で行動したいと願出る。北条新太郎などの談判で、市川・北条双方に属することとなる。
	10月1日	北条新太郎から鯉淵勢500人に赤襦袢が拝領となった。その後、不足していた200人にも配られる。
	10月2日	市川勢、馬渡り並木入口で砲発し、帰陣。その夜、北条からの命令で、鯉淵勢のうち5人が部田野原まで物見に出掛けた。この日、達により柳沢村に宿陣中の多賀外記に鯉淵勢300人余が属することとなり、萌黄襦袢が配布された。
	10月3日	7ツころ、鯉淵勢のうち8人が湊後雲雀塚、稻荷山まで適地の様子を探りに行った。6軒家先で発砲し帰陣。同日峰山へ地理の調査。敵方の見張りの者を砲撃し、帰陣する。
10月4日	夕方、鯉淵勢は一同、市川勢の本陣に行く。	
10月5日	4ツ時、市川勢、諸生らとともに鯉淵勢も出陣する。部田野原で発砲し合い、夜になって帰る。同日夕方、田沼玄蕃守から市川へ幕府の験である日ノ丸が渡され、それが鯉淵勢に拝領となった。一同光栄に思い、ありがたく受け取る。	
10/6~7	滞陣。	
10/8~9	鯉淵勢はは、市川からの命令で、中根村表3ヶ所を固める。	
10月10日	部田野原で大合戦となる。幕府軍、市川軍に続き、鯉淵勢も出陣となる。鯉淵勢のうち、赤襦袢組は先人をつとめる。この戦いで、鯉淵勢の即死者は2人、手負も2人。同日、東中根村三ヶ所の警固を鯉淵勢が命ぜられる。	
10/11~16	所々の警固に出掛ける。	
10月18日	市川勢と鯉淵勢一同は部田野原で戦う。この時、鯉淵勢のうち半勢は前浜村へ出掛け、残りの半勢が部田野原で発砲。賊の首を3つ取るが、市川側の手負が20人、即死者もあるので帰陣した。	
10/19~22	所々の警固。	
10月23日	賊が湊表から退去するので、友部八太郎からの達で鯉淵勢は二手に分かれ、馬渡村より松並通り高野村、足崎村まで追討に出掛けた。しかし敵は遠くまで逃走しており、仕方なく帰陣。	
10月24日	市川の本陣へ出掛け、追討の伺いを立てる。市川からは帰陣を命令され、水戸城下南表を警固していた市川に属していた者も戻るようになった。村中6ヶ所の見張りは昼夜交替で嚴重になされた。	
— 多賀外記に属した者たちの動向 —		
	10月4日	多賀の命令で用意したおいた橋材木を、鯉淵勢は川下にかけて。先陣を命ぜられ、峰山に攻め入る。賊は放火し逃走。大砲4挺、連旗3本、手槍1本を分捕る。達により、柳沢村まで帰陣した。味方のとう討ち死には3人、手負も3人。
	10/7~8	昼夜本陣の見張をつとめる。
	10月9日	柳沢村から川又村へ陣が替わる。
	10月10日	願入寺下舟場から反射へ大砲で打ちかける。兵糧を持っていた賊1人を打つ。
	10月11日	本陣の見張り、願入寺下舟場の固めをし、その残りの人数は三反田村から杉丸太を運び、那珂川で筏組みを命ぜられた。
	19/12~14	願入寺下舟場の警固。本陣の見張り。
	10月15日	多賀外記の供をして、磯ノ浜から祝町願入寺まで案内する。
	10月16日	本陣の見張り。舟場固、残りの人数は反射へ大砲を打ちかける。
	10月17日	昼は舟場固、夜は多賀の一手、繁沢亦三郎の命令で近辺から竹を買い集め夜中に竹梯子をそろえることとなった。
	10/18~21	本陣の見張り。
	10月22日	願入寺舟場固。夜4ツ半時、命令により兵糧持参で本陣に詰める。鯉淵勢に舟15艘下げ渡しとなる。
	10月23日	暁7ツ時に舟で粉川へ渡る。反射への先陣をつとめ、大砲、鉛子、薬などを分捕る。館山、部田野原、馬渡りまで追討するが、賊は逃げ去る。多賀の達で、反射に帰陣し、降参人の見張りをする。
	10月24日	願入寺浦、粉川舟場固め。
	10月25日	多賀外記の達により、降参人を塩ヶ崎長福寺へ引き立てるので、小泉村舟場固めを命ぜられる。
	10/26~27	塩ヶ崎長福寺で昼夜の見張り。
	10月28日	川又村から塩ヶ崎へ陣を替える。
	10月29日	多賀下記が塩ヶ崎長福寺で降参人を引きとることになり、評定所まで送るといので、夜中に供を申し付けられた。弘道館で宿陣。
	10月30日	多賀下記より酒が配られ、帰村となった。